

G20に県産酒、ワインを

2酒造組合 自民党本部訪ね要望

県酒造組合(仲野益美会長)と真ワイン酒造組合(大沼寿洋理事長)は21日、大阪市で6月に開かれる20カ国・地域(G20)首脳会合で県産酒、県産ワインを使用するよう自民党に要望した。

仲野会長、大沼理事長が大沼瑞穂参院議員とともに自民党本部を訪ね、岸田文雄政調会長に要望書を渡した。

仲野会長は要望後、日本と欧州連合(EU)の経済連携協定(EPA)を念頭



に、酒類では欧州から入ってくるものに対し、日本から輸出できるものが少ないとし、「地域を語って初めて嗜好品として評価され

る。地理的表示(GI)保護制度で指定された『山形』のマークが付いた品を採用し、日本酒の広がりを理解する一助となるよう応援してほしい」と話した。

大沼理事長は「山形は小さいワイナリーが多いが、品質重視で頑張っている。世界に負けないワインがあることを知ってもらいたい機会だと思つ」と語った。

(伊藤英俊)

自民党の岸田文雄政調会長(左から2人目)に要望書を渡す仲野益美県酒造組合会長(同3人目)と大沼寿洋県ワイン酒造組合理事長(左端)ら

|| 東京・永田町